

令和5年第4回定例会 建設環境委員会 所管事務調査経過報告書

狭山市駅加佐志線整備の進捗状況について

説明の概要

狭山市駅加佐志線整備事業は、狭山市駅東口土地区画整理境から東京狭山線までの約930メートル、車道9メートル、両側歩道各3.5メートルの道路幅員16メートルの道路整備となる。

市道幹第90号線外1線交差点改良工事は、東京狭山線に狭山市駅加佐志線を接続するため、右折帯を含む新規交差点を築造しており、交通渋滞を考慮し、一部夜間施工で実施している。

市道A第752号線道路改良工事は、令和6年度末の東京狭山線から旧東中学校跡地までの部分供用に向けた道路及び交差点整備を進めている。

工事が完了している市道A第961号線仮設道路は、狭山市駅方面と新狭山方面を結ぶ生活道路として不可欠であり、令和6年度に実施予定の本線の路床改良工事により現道が通行できなくなることから、旧東中学校用地に仮設道路として築造した。

同じく完了している幹第90号線粗造成工事についても、令和6年度の路床改良工事に先立ち、計画高さに道路を築造した。

市道幹第90号線外1線雨水管築造工事は、狭山市駅加佐志線の道路雨水を処理するため、調整池までの雨水管を埋設している。

令和8年度末の狭山市駅加佐志線供用に向けた工事計画について、令和6年度工事予定箇所は、東京狭山線との新規交差点部の舗装及び安全施設設置工事を含む道路工事2件、雨水管工事1件、道路維持課と一体整備となる久保川の調節池、狭山市駅加佐志線の調整池の整備を予定している。

令和7年度の工事予定箇所は、令和6年度に路床改良した箇所を含む約530メートルの道路築造工事と東口土地区画整理境から約200メートルの路床改良工事を予定している。

狭山市駅加佐志線整備事業における用地の取得状況については、令和5年10月末現在、取得済用地は、狭山市駅加佐志線本線部1万1,384.21平方メートル、約88%、排水経路部2,019.57平方メートル、約48%となっている。今年度は、狭山市駅加佐志線と入間川入曽線の交差点部の16筆2,055.8平方メートルを取得している。現在も未買収用地の取得に向け交渉を進めており、全ての用地を取得すると、狭山市駅加佐志線整備事業における用地取得面積は1万7,045.4平方メートルとなる。今後も、令和8年度末の全線供用に向け事業を推進していく。

主な質疑

次に、主な質疑、答弁について申し上げます。

○全ての工事が終わり全線供用開始になるのはいつか。

●令和8年度末の供用開始に向けて進めており、令和9年3月末を予定している。

○狭山市駅加佐志線が開通することによって得られる効果は。

●道路とは人や地域の交流、物資の移動につながるものとする。また、道路が開通することにより、まちの骨格をつくり、人々の暮らしや経済活動を整える環境を創出するものとする。

○狭山市駅加佐志線における地権者との交渉状況は。

●狭山市駅加佐志線の本線については、現在4名の地権者がおり、交渉を進めている。

○狭山市駅加佐志線を整備する中で、付加価値を高めるためには、市道幹第94号線、入間川入曽線についても整備を進められたいが、まだ土地を取得できていない箇所との交渉状況は。

●排水経路の地権者に関しては、今年1月の段階で承諾が得られなかった。そのため繰越しをしているが、地権者の5名のうち2名は、既に契約済である。残りの3名のうち2名は、12月初旬に契約する予定。残りの1名は、まだ契約に至らない状況で今後も交渉を進めていく。令和5年度予算計上した2件については、1件は契約済、もう1件は相続が発生し、タイミングを見て交渉を開始する。

○既存道路と加佐志線の接続は、今後どうされる予定か。

●計画道路につながる既存の道路は、警察と協議を進めて、計画道路と接続するような形で調整をしていく。

○市道第A961号線は、今後も生かすのか。

●市道第A961号線と計画道路は一部高低差があるため接続はしない。その他のA961号線は、警察と協議を進め、計画道路に直角に接続するよう検討していく。

○東京狭山線と狭山市駅加佐志線と交差する部分は、信号を設置しなくてはならないと思うが、商業施設等に曲がる交差点の信号との関連が非常に難しいと思われる。東京狭山線の右折車両の渋滞が予測されるが、警察と市は状況を把握はしているか。

●東京狭山線の右折帯の渋滞については、既に交通量調査を実施しており、今後の渋滞状況を推測して整備しているため、現時点では問題ない。現状が変動するようなことがあれば再考する。

○今年3月の本年度当初予算審議のときの図面と比較すると、雨水管築造工事においては、220メートルの予定が、148メートルとなっているが、その差異の理由は。

●雨水管築造工事は、地権者の同意が得られず契約まで至っていないことから、築造範囲を変更している。

○入間川入曽線の雨水管築造工事において、工事の計画期間内に未買収用地を取得できなかった場合は、工事が遅れるのか。

●未取得用地については、今年度、早期契約に向けて、今後の整備計画に支障がないよう進めていきたい。

主な意見

○今日までの努力が十分伝わってくる。今後も、全線供用開始に向けて最後まで努力されたい。